

へいせい ねん どぶんきょうくしょうがいしゃちいきじりつしえんきょうぎかい
平成30年度文京区障害者地域自立支援協議会

だい かいしょうがいとうじしゃぶかい しだい
第3回障害当事者部会 次第

へいせい ねん がつついたち もく ご ご じ じ
平成30年11月1日(木) 午後2時から4時まで

ぶんきょう かい しょうがいしゃかいかん かいぎしつしー
文京シビックセンター3階 障害者会館 会議室C

1 かいかいあいさつ ぶんきょうくしょうがいとうじしゃぶかい ふくぶかいちょう ながのし
開会挨拶 文京区障害当事者部会 副部長 永野氏より

2 ぎだい
議題

(1) にちじょう こま しりょうだい ごう
日常の困りごとについて【資料第1号】

(2) つく い えん じけん かんが しりょうだい ごう ごう
津久井やまゆり園の事件について考える【資料第2-1号、2-2号】

(3) だい かい かいさいほうほう
第4回の開催方法について

(4) こんねんど ぶんきょうそうごうふくし まつ さんか
今年度の文京総合福祉センター祭りの参加について【資料第3号】

とちゅうきゅうけい ぶんていど
(途中休憩10分程度)

3 た
その他

はいふしりょう
【配布資料】

しりょうだい ごう こま
資料第1号 困りごとのテーマについて

しりょうだい ごう つく い えん はっせい じけん
資料第2-1号 津久井やまゆり園において発生した事件について

しりょうだい ごう さがみはらし しょうがいしゃしえんしせつ じけん けんしょうおよ さいはつ
資料第2-2号 「相模原市の障害者支援施設における事件の検証及び再発

ぼうしさくけんとう ほうこくしょ がいよう いちぶぼつすい
防止策検討チーム」報告書(概要) 一部抜粋

資料第3号 平成30年 文京総合福祉センター祭り 模擬店について

にちじょう こま い けんこうかん
日常の困りごとについての意見交換

あん
テーマ案

しょうがいとう じしゃむ じょうほうはっしん はいりよ
◎ 障害当事者向けにどのような情報発信の配慮をして
ほしいか

◎ コミュニケーションを取るときに困ること

こどくかん たいしょ ほうほう
◎ 孤独感について（対処の方法など）

れんあい であい ば
◎ 恋愛について（出会いの場など）

しょうがい りかい はいりよ
◎ 障害の理解や配慮してもらいたいときにどうするか。

しゅうろう
◎ 就労について

◎ その他

津久井やまゆり園において発生した事件について

1 事件の概要

平成28年7月26日午前2時頃、指定管理施設である津久井やまゆり園において、

同園の元職員である植松 聖 (26歳) が施設のガラスを割って侵入し、施設の利用者

男女が刺され、男女19人が死亡、男女27人が負傷 (うち3名は職員) しました。

当日、津久井やまゆり園には、入所者149名、短期入所者8名、計157名の利用者

が在園していました。

被疑者は、逃走した後、津久井警察署に自家用車で出頭し、自分がやったと自供し、

血痕が付着した包丁やナイフを所持していたことから、捜査を実施し、現場で建造物

侵入並びに殺人未遂で緊急逮捕したとのことです。

被疑者は、28年2月19日まで、津久井やまゆり園に常勤職員として勤務していました。

2 死亡者・負傷者等の状況 (事件当日)

事件発生当時の死亡者及び負傷者の状況は、次のとおりです (職員3名を除く)。

負傷された利用者は、北里大学病院等6つの医療機関に搬送されました。

なお、事件の被害にあわなかった男性64名、女性44名の計108名の入所者は、事件

発生当日は、園内にて過ごされました。このほか、短期入所者の方8名のうち6名

は、自宅に帰宅されました。

「相模原市の障害者支援施設における事件の検証及び

再発防止策検討チーム」報告書（概要）一部抜粋

共生社会の推進に向けた取り組み

検証を通じて明らかになった課題

- 今回の事件は障害者への一方的かつ身勝手な偏見や差別意識が背景
- 偏見や差別意識を払拭し、「互いに人格と個性を尊重しながら共生する社会」の実現に向けた取組を進めることが不可欠



再発防止策の方向性

- 「障害者週間」、政府広報などあらゆる機会を活用し、政府の姿勢や障害者差別解消法の理念を周知・啓発
- 学校教育をはじめあらゆる場での「心のバリアフリー」の取組の充実
- 障害者の地域移行や地域生活の支援

社会福祉施設等における対応

検証を通じて明らかになった課題

- 地域に開かれた施設という基本的な方針と安全確保の両立を目指す必要

- 容疑者は施設の元職員。施設の職員が、心身ともに疲弊して孤立することなく、やりがいや誇りを持って働ける職場環境づくりが重要



再発防止策の方向性

- 9月に発出された防犯に係る点検項目通知を踏まえた各施設の取組を支援
- 権利擁護の視点を含めた職員研修の更なる推進、処遇改善や心の健康管理面の強化等による職場環境の改善

平成30年 文京総合福祉センター祭り 模擬店について

「デリシャス・トッピング・ワッフル」

日にち：平成30年11月10日（土）

ワッフルの販売を行います。トッピングはお客様ご自身で楽しんでいただきます。

【当日の流れ】

9：00 集合。流れの最終確認。商品準備。

10：00 販売開始

15：00 販売終了

15：30 解散

○当事者部会委員は自由参加

○休憩あり

○売上状況に応じて販売外回り実施予定

【当日持ち物】エプロン、三角巾、ハンカチ

☆最終打合せ・販売シュミレーション

…事業所利用者、当事者部会委員、職員全員集合して当日の確認を行います。

11月5日（月）14：30～15：30 アビーム2階 201号室にて実施

津久井やまゆり園の事件

- 2016年7月26日午前2時頃、神奈川県指定管理施設である津久井やまゆり園において、同園の元職員が施設のガラスを割って侵入し、施設の利用者男女が刺され、男女19人が死亡、男女27人が負傷した。

「意思疎通のできない人を刃物で刺した」

「重複障害者は生きていくのは不幸だ」

「抹殺することが救済」

「施設に勤めなければ思いつかなかったと思います。彼らと接する中で、徐々に必要ないと思っていきました。」

報道の匿名、入所施設のあり方、意思決定、優生思想、内なる差別

津久井やまゆり園(1964年開設)150人入所、10人ショートステイ



安楽死計画—暗号名「T4作戦」

- ・ナチス・ドイツの「優生思想」で、障害者や難病の患者は「安楽死計画」の犠牲になった。
1939年から1941年8月までに、約7万人の障害者が「生きるに値しない生命」として抹殺された。
- ・「安楽死計画」の事務所（中央本部）がベルリンのティアガルデン4番地のユダヤ人の個人邸宅を接收しそこに置かれたことから、この計画は、暗号で「T4作戦」と呼ばれた。
- ・ナチス・ドイツ社会では遺伝性疾患をもつ人がいかに「ドイツ民族共同体」に負担をかけているか、意味もなく国民の大事なお金を使う存在であるかが強調された。



ナチスが作った宣伝用ポスター

ナチスが学校教育で用いた図＝「劣等分子の重荷」

椅子に腰かけた脳性マヒの男性の後ろに、健康かつハンサムなドイツ青年が立ち、かばうように患者の肩に手を置いている。

「この立派な人間が、こんな、我々の社会を脅かす病んだ人間の世話に専念している。我々はこの図を恥ずべきではないのか？」

「遺伝病患者は、国家に1日あたり
5.50マルクの負担をかけている。
5.50マルクあれば遺伝的に健康
な家族が1日暮らすことができる」

